

---

# 雨の秘め事

深桜 夕月

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

雨の秘め事

### 【コード】

N0490M

### 【作者名】

深桜 夕月

### 【あらすじ】

雨が降りやすくなる、日本の季節・・・『梅雨』  
そんな季節のちよつとした物語。

「チツ・・・運悪いな・・・」  
先ほどから雨が降り出し、沖原遥翔おきはらのはるとは公園の滑り台の下で雨宿りしていた。始めは小雨だったがすぐに土砂降りになってしまい、帰れなくなってしまうのだ。昔から体の弱い遥翔としては、濡れて帰りたくはない。

「つたく・・・いつになったら止むんだよ。濡れて帰りたくはねーんだけどなあ」

「じゃあ一緒に傘に入りましょうよ」

不意に後ろから聞こえた鈴の音のような声・・・深天みそらだ。

「いいのか？」

「うん」

「悪いな」

「いえいえ」

淡い桜色の傘に二人で入る。深天と遥翔にはかなり身長差があるため、深天がどんなに頑張っても遥翔の方が少しかがむ状態になる。

「ほら、貸せ」

深天の手から傘を取る。

「あ、ありがとう」

「いや・・・」

横目で一瞥をしてみると、さっきまで気付かなかったが深天の肩が少し濡れている。

自分の方に引き寄せてみると、深天は頬を赤らめた。

「わわっ！」

「なんだよ」

「う、ううんっ！なんでもない！」

いつの間にやら雨は止んでいた。夕立だったらしい。すると隣から細い腕が天を指した。

「見て！遙翔、虹だよ！！」

言われて空を見ると、見事な虹が出ていた。遙翔は虹を真っ直ぐ見つめる深天の横顔を見ていた。

「ん？ なぁに？ 何かついてる？」

「いや、何も」

「そう？ あ、傘閉じない？」

言われて気付いた。そういえばそうだ。遥翔は傘を下に降ろしかけて・・・

「なっ！ちよっ！..！」

「今日のお礼だ。別にいいだろ？ 傘で隠れて誰も見てねーよ」

「そういうこと〜？？？！..！」

傘で隠された二人の刻ときは二人だけの永遠の秘密

(後書き)

久々ですね。

今回は同テーマ作品第4弾です。テーマは『雨』。

月一回書くはずなのに先月は書きませんでした。やはり学生なのでテストが・・・ということです。またあるかもしれないがご了承くださいな。

以上、深桜でした

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0490m/>

---

雨の秘め事

2011年1月15日20時54分発行